

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜県岐阜市立長森南中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 500—8237

岐阜県岐阜市切通 2-11-1

E-mail gichu20@nagamori-s-j.gifu-gif.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 192 名 女子 184 名 合計 376 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、ESDの学習に関わって、「自立」を学校理念として掲げ、「自ら課題を見付け、問題の解決や探究活動に主体的・協同的に取り組む中で、考えを深め、発展させ、自己の生き方を追求できる生徒の育成」を目標とした。

具体的には、総合的な学習の時間を中心に、第1学年では「環境・生き方学習」、第2学年では「職業・生き方学習」、第3学年では「人権・生き方学習」を通して、①河川の水質調査や生物調査に係わる活動、②エネルギー問題に係わる教育、③生きること・働くことに係わる学習、④人権問題に係わる学習をおこなった。

① 河川の水質調査や生物調査に係わる活動

身近な河川環境の調査を通して、身のまわりの環境への興味・関心を高めるとともに、「水」と「人」との関わりを学ぶ活動をおこなった。専門家を招き、水質調査の方法を学び、実際に岐阜県郡上市の河川や生活排水等の水質調査をおこなった。その学習活動を基盤として、次に校区内の境川の水質調査及水生生物調査を行い、身のまわりの環境についての理解を深めた。そこで採取した生物の一部は、現在も水槽で飼育がおこなわれている。また、これらの活動については、岐阜アースレンジャー子ども会議(市の環境課主催)において発表している。

② エネルギー問題に係る教育

エネルギー問題を取り上げることで、身近な環境問題から地球を取り巻く環境問題へと学習内容を発展させた。地球温暖化の学習を皮切りに、各家庭でエコワットを使った電力調査や水素自動車 MIRAI の試乗体験を通して、未来のエネルギー像への理解を深めた。この学習活動では、最先端の技術に触れることで ESD の学習へとつなげることできた。

③ 生きること・働くことに係わる学習

職業・生き方学習を通して、他者の生き方に学び、体験から感じとったことや考えたことを伝え合う力を養った。職場体験活動を中心として、事前のマナー講座や事後の職業人と語る会、税理士を招いてのマナープランなどの学習活動から「生きること・働くこと」の意義や目的を多角的に捉え、将来の自分の生き方について考えた。職業人と語る会は、「立志の会」とも連動しており、自分の生き方を見つめる良い機会となっている。これらの取組をもとに3年生での進路学習をより深いものへとつなげている。

④ 人権問題に係わる学習

人権・生き方学習の中で、自ら課題を見付け、その課題解決に向けて主体的・協同的に学習に取り組み、自己の生き方を考えた。身のまわりにおける様々な人権問題に目を向け、グループごとに実際に人権施設に赴き、講話を聞いた。これらの学習を通して、人権問題に対する正しい知識と理解を深め、自分の問題として捉えるとともに解決に向けての具体的な願いを持てるようにした。また、自分を見つめ、仲間とのより良い生き方への探求へとすなげ、生き方学習の総括とした。



① の写真（水質調査）



② の写真（エネルギー講話）



③ の写真（職場体験活動）



④ の写真（人権施設訪問）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(宿泊を伴う研修)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none">・ COD パックテスト・ エコワット・ 水素自動車 MIRAI (岐阜県庁より無償貸与)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

主に総合的な学習の時間の活動（「ESD TIME」としている）として、学年ごとに指導目標、活動内容、指導計画を位置付けて取り組んでいる。第1学年では「環境」、第2学年では「職業」、第3学年では「人権」をテーマとして、全学年共通して「生き方」に係る活動を基盤としている。宿泊を伴う研修の際には、これらの学習に係る活動を体験活動として積極的に取り入れている。また、各教科、特別活動、道徳の時間との関連を図るとともに、校区の小学校との連携や地域の人材活用なども視野に入れて活動の幅を広げておこなっている。評価についても、教科同様、関心・意欲だけでなく、思考判断、技能表現、総合力など適切な項目を考えおこなっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

総合的な学習の時間の名称を「ESD TIME」とし、学習指導部会を中心に全体計画、年間の指導計画を立て、全職員が活動目標・内容を共有するとともに、各学年主任が中心となって活動を執り行っている。また、外部機関との連携を図り、講師の招致や施設訪問など年間の計画の中に位置付けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

生徒による事後評価および学校側の内部評価と学校運営協議会や保護者などによる外部評価とをおこなっている。成果としては、地域を巻き込んだボランティア活動が活発化してきたことや地域の協力がより強固となり、保護者への理解が深められた。課題としては、地域の人材活用をより有効的に図る取組が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

学校HPでの紹介を中心におこなっている。他に市の環境課によるアースレンジャー子ども会議での発表やエコクラブの活動に参加するなどしている。特にアースレンジャー子ども会議では、岐阜大学のESDサークルとの合同活動がおこなわれるなど、他団体との交流、ネットワークが広がった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

現在、岐阜大学のESDサークルとのネットワークを構築計画中である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

現段階では未定である。今後の検討課題となっている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

もともと第1学年の環境学習の取組が中心であったが、学校全体として取り組むべき内容として枠を拡げることができた。また、学校としての育てたい資質や能力、態度が明確になり、目ざす生徒像がより鮮明になってきた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

	第1学年	第2学年	第3学年
テーマ	環境	職業	人権
	生き方		
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの問題に気づき、課題解決に向けて主体的に学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の生きに学び体験から感じとったことや考えたことを伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見付け、その課題解決に向けて、主体的協働的に学習に取り組み、自己の生き方を考えることができる。
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> 水質調査や水生生物調査をおこない身近な環境問題を理解する。 最先端の技術に触れ、未来のエネルギー像を創造し、その実現に向けての具体的な願いを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験活動を通して、様々な人々生き様や生活に触れ、働くことや生きることの意味や価値打ちを理解し、自分の生き方について具体的な願いを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権問題を自分の問題として捉え、解決に向けての具体的な願いを持つとともに実際に行動に移す努力をする。
計画	<ul style="list-style-type: none"> 郡上研修（水質調査） 境川水生生物調査 エネルギー学習 	<ul style="list-style-type: none"> 海の研修 マナー講座 職場体験活動 職業人講話 マナープラン 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行（人権施設訪問） 人権講話 語る会